

永原学園地域子育て支援センター  
**さんこう・ぽぽら**より  
令和6年3月発行・第203号  
認定こども園西九州大学附属 三光保育園  
TEL:0952-31-6877

今年度は活気が復活(^ ^)

コロナ禍での活動制限が解かれ、今年度は久しぶりに「平常」のセンター活動を実施することができました。どの講座も楽しみにして下さる方々ばかりで、保育者達はとても嬉しくやりがいを感じていました。

中でも、赤ちゃんの日にお父さんも参加されるようになったことで、現在子育て中の両方の思いや困り感、支援の在り方など、改めて考えることができました。

子ども家庭庁が発足し、こども基本法が制定されて1年。この4月から始まる事業や制度も出てきました。さんこうぽぽらでも、時代のニーズに合わせて内容の改善や新規の講座開設につなげていきたいと思えます。その原点は、支援事業に集う利用者の皆様の声です。子育てで困っていること、不思議に思うこと、子育ての体験をして分かったこと・・・等々、センターの担当者に聞いていただくと、関係機関の方へ発信していきたいと思えます。

マスクを外した親子同士の交流を傍で眺めていると、同じ時代を生きていく仲間として助け合っていってほしいと願いました。

来年度もさんこうぽぽらをよろしく願います。  
(三光保育園園長)

### ♪育児相談・食育相談をしています♪

三光保育園及び三光幼稚園では、育児・食育相談を受け付けています。お気軽に申し込みください。  
※毎月第3火曜日の14時～16時までは、西九州大学短期大学部教員による食育相談を行っています。  
※平常時は下記のような支援も行っております。しかし、時節柄、利用できる期間が限られていますので、ご理解をお願いいたします。電話での子育て相談は随時、受け付けておりますので、ぜひご利用下さい♪

#### ぽぽら(園庭を含む)開放の時間帯について

開園日：月～金(祝祭日・お盆・年末年始を除く)  
時間：9:00～12:30  
※園行事の為、ご利用できない場合があります。  
※出前支援の場合は、担当職員が不在になります。  
12:30～13:30 昼休み・準備の為閉園  
13:30～16:00  
※この時間帯のご利用の場合は、電話での申し込みをお願いいたします。

2月も感染症に気をつけながら、楽しく支援活動を楽しみました。来年度もよろしく願います。



なかよし1歳、2歳  
ふりかけを作って、おにぎりを作りましたよ!



赤ちゃんの日：ベビータンゴ  
楽しく体を動かしました!



### 「シニアサロンぽぽら」

子育て支援センター「さんこうぽぽら」では、月に1回地域の方におこし頂き、楽しいひと時を過ごしています。今年度を振り返り、来年度に向けてお話しませんか。

日時：3月19日(火)10時～  
年長さんとの交流・1年の振り返り♪

### 3月の「子育て支援事業」のお知らせ

#### ①実施日

- ・3月6日(水)・7日(木)・8日(金)・・・フリーデー
  - ・3月13日(水)・・・なかよしミックス(ひょうたん島公園で遊ぶ)
  - ・3月14日(木)・・・なかよしミックス(ひょうたん島公園で遊ぶ)
- ※両日とも先着15組です。

ひょうたん島公園に集合、解散です。雨天時は中止です。  
さんこう・ぽぽらHPをご確認ください。

#### ②時間：10時～12時

#### ③開催場所：フリーデー：子育て支援センター・運動場

※事前の電話での申し込みが必要です。

3月分の申し込み 3/1(金)～9時半～17時

※フリーデーの予約は必要ありません。ご都合が付く日に  
ご来園ください。

※感染対策にご協力ください。

※詳しくは「さんこうぽぽら」HPをご覧ください。

## 「大谷家の子育て」

西九州大学子ども学部

子ども学科 准教授 宮崎耕一

老若男女問わず、今、話題の人と言え、メジャーリーグ、ロサンジェルスドジャーズの大谷翔平選手でしょう。ベースボールプレイヤーとして超一流であることは言うまでもなく、その人間性についても尊敬に値する人物として、その一挙手一投足が母国日本はもとより全米で注目の的となっています。

そのような人物ですので、「我が子を大谷翔平のように…」と願う親は少なからず、いや、かなりの数存在しているものと思われ、大谷家の子育てへの関心も高まっています。

もちろん、大谷家の子育てをそのまま実践すれば必ず…、ということにならないことは誰もが理解していることと思いますが、その中には、子育てをする親として、また、教育者として心しておかなければならないヒントが見えてきます。

例えば、大谷選手は幼いころから「160kmを投げる」や「メジャーリーグに行く」などの大それたことを、臆することなくご両親の前で口にしてきたとのこと。その際、ご両親は「何をばかなことを…」や「できるはずがない」などと頭ごなしに否定せず、そのために何をどのようにすればよいか考えさせ、励まし見守ったそうです。また自分で決めることで、自己責任の考えや、自分で決めたことを頑張れる人になってほしいとの願いのもと、習い事や進路など親が口出しすることなく大谷選手自身に決めさせていたということです。

ご両親は本人が好きなこと、望むことを何よりも優先させ、自己決定を尊重し、その延長にある大きな決断もそっと見守りました。

実際、大谷選手は「母は、僕のやりたいことを僕のやりたいようにやらせてくれた。」、またご両親は「夫も私も子どもの人生の選択には口を挟みません。」、「メジャー行きを宣言したのも、日本ハムを選択したのも息子の意志。自分が納得する方向に進むのがいちばんです。」と語っています。

心理学者でもある河合隼雄京都大学名誉教授は、著書『私が語り伝えたかったこと』の中で、「昔の親はお金がなく、子どもに最低限の衣食住ですら十分なことができなかったため、何をしてやろうかと考えた。けれどいまの親の愛情は『何をしないか』を考えなければならない」という言葉を残しています。

また、子どもの育ちについて「親は最短距離で成長してほしいとついつい願ってしまう…しかし、子どもは子どもなりのスタンス、ペースでその時々貴重な成長のプロセスにある。」という言葉があります。

あわただしい日常生活の中、なかなか難しいことだとは思いますが、大谷家の子育てからヒントになりそうなものを探してみませんか。